

# ダルニー通信

075  
2014  
WINTER

02-05

特集

## ベトナムとミャンマーの 教育の歴史

06-07

元タイ教育省事務次官パノム氏に聞く

08-09

元タイ奨学生の消息



10

中退した奨学生

11

ガレージモンチ竹野さん

12-13

エッセイコンテスト作品

14

タイ料理

15

私の教育基金

16

新潟ドナー連絡会

17

emailアドレス

18

Study For Two

19

ラオス旅行

20

自転車プロジェクト

# メコン五ヶ国の教育の歴史（前）

民際センターが支援しているメコン5カ国の中、植民地にならなかったのはタイだけで、それ以外の4カ国はイギリスまたはフランスの植民地になりました。頭の中に世界地図を思い描くと理解しやすいのですが、イギリスがインドからビルマへと植民地支配の手を東へ伸ばし、また南のシンガポールとマレーシアを手中にし、西と南からタイ国境に迫ってきました。一方、フランスはインドシナ半島3カ国を植民地にしました。その間にタイがあって、イギリスとフランスがお互いを牽制しあった結果、タイは植民地になることを免れました（タイ政府の巧みな駆け引きもありましたが）。タイが5カ国の中で最も経済発展している理由として、宗主国による富の収奪がなかったことが一因でしょう。

それ以外の4カ国は国として成立する前に植民地化されたり、長く激しい内戦後に独立したりしたので、ゼロではなくマイナスから教育をスタートしなければなりませんでした。

例えば、14世紀後半に人口70万人程度のランサン王国としてスタートしたラオスは18世紀に3つの王国に分裂し、どの王国もベトナムやタイに朝貢していました。その後、再統一されないままフランスの植民地になってしまったため、統一語=国語を発達させることができませんでした。現在でもたくさんの少数民族が独自の言語を使って生活している理由の1つは、そうした歴史ゆえです。

フランス植民地政府は、ラオスの人口が少なく資源も発見されず、さらに海(港)を持たないため、ラオスの発展にさして興味を示さず、ビエンチャンなどいくつか都市にフランス語による教育を行う小学校3年までの小学校をつくっただけでした。独立した1954年でも高校はビエンチャンに1校あるだけで、フランスの教科書が使われていました。独立してからでさえ、自らの言語で自らの文化や歴史を学ぶことができなかったのです。

## ◆中国文化の影響で知識を尊重したベトナム

10世紀に中国から独立してスタートしたベトナムは、すぐに科挙（官吏登用試験）を導入しました。日本同様に中国文化の圧倒的影響を受けたベトナムでは、早くからハノイを中心に行き、教育に力をいれました。貧しさから脱出するために、一生懸命に勉強して科挙に合格して官吏になる伝統が徐々に培わってきました。

19世紀後半にフランスの植民地になっても、ラオスと違って、北部のハノイと南部のサイゴン（現ホーチミン市）は近代的な都市として発展しました。人口の8割は農民であっても、残り2割は都市部で知識人や下級官吏になりました。またフランスの植民地統治政策により、カンボジアに移住してカンボジア人の上に立って官僚としてフランスのために働きました（カンボジアとベトナムの仲が悪い歴史的理由。さらにもう1つの理由は、ベトナムとカンボジアの国境線があいまいだった地域に住むフランス人地主が、生産性の高いベトナム人労働者を主にベトナム中部から雇い入れたため、結果としてカンボジア人を追い出すことになってしまいました。その地域は現在ベトナムになっています）。

次ページでも触れていますが、100年近くに及ぶフランスの植民地化、20年に及ぶベトナム戦争。さらにはカンボジアへの軍事進出と中国との戦争（中越戦争）。この間、ソ連ブロックに入ったため国際的孤立が重なり、経済が停滞し、教育がうまく機能しませんでした。とはいえ、植民地前の、800年にわたる教育の歴史があるため識字率は高く、それが1986年のドイモイ（刷新）政策後の急速な経済発展につながりました。

今号ではベトナムとミャンマーの事務局に、植民地時代の教育を中心に自国の教育の歴史について書いてもらいました。次号ではラオスとカンボジアの事務局に同じテーマで記事を書いてもらいます。

# ベトナムの教育の歴史



子どもは労働力。ベトナム農村部で

## ● 中国の影響、フランスと日本の占領時代、ベトナム戦争、そして現在

ベトナム事務局長 タカサゴ・バン

フランスの植民地になる前、ベトナムは北部を中心に中国の影響、特に儒教の影響が絶大でした。当時、公立の学校はなく、先生の家を教室にして生徒が集まる私塾でした。授業は儒教の本を読み、筆写することが中心でした。試験は漢詩を作ること。私塾には金銭的に裕福な子が通っていました。

19世紀末にフランスの植民地になると儒教教育は一掃され、西欧の教育方法が導入され、フランス本国の教育がベトナムに持ち込まれました。小学校から大学までフランス植民地政府の管理下におかれ、女性も学校に通うことができるようになりました。

その点では、この時期はベトナムの教育にとって革命的な時期とみなされていますが、実際、ほとんどの子どもたちは学校に行くことはできませんでした。教育の内容も、ベトナム人やベトナム社会の向上・発展ではなく、植民地政府の役に立つ人材の養成が目的でした。

1940年、日本軍がベトナムに進駐しました(仏印駐進)。そしてフランスを追い出し、100年に及ぶフランスの植民地からベトナムの人々を“解放”したかに見えました。しかし、日本が占領した1940～1945年、教育については何の変化もありませんでした。むしろ、ベトナムにおける教育の歴史の中では暗黒時代といった方がよいかもしれません。というのも、バラック小屋を建てて生徒を集め、戦争遂行のための労働奉仕に駆り立てただけだからです。

日本軍占領時代、フランスが作った、100年にも及ぶ教育システムはまったく行き詰ってしまいました。生徒は勉強する場所を、知識人は知識を活用する場所を失いました。ベトナム固有の教育も日本軍が占領している間、何の役割も果たせませんでした。日本軍は、軍服などを生産するのに必要な物資、すなわちジュートや綿などの原料を増やすため、「米の生産をやめ、ジュートの生産を増やす」政策を遂行しました。このため、1945年に人口の1割にあたる200万人が餓死しました。とりわけ、土地を持たない都会の知識人たちは食べ物を手に入れることができず、餓死率が高かったようです。非識字率95%の当時、読み書きのできる知識人を失ったことは、その後のベトナムの教育にとって大きな影響を残しました。

第2次世界大戦が終わり、ベトナムは独立を宣言しました。しかし、旧宗主国であるフランスがベトナムに戻ってきて、政治や社会は混乱状態でした。フランスがベトナム軍に負けて（デンビエンフーの戦い）撤退するとアメリカが来て、ベトナム戦争は激化しました。1945年からベトナム戦争が終わる1975年まで北と南では教育内容は別々で、教育内容も場当たり的な不安定なものとなりました。非識字率は改善したものの、経済的に貧しい人々にとって教育を受ける機会は少なかったのです。

ベトナム戦争が終わった1975年、北と南のベトナムは統一され、社会主義国になりました。教育はソ連と中国の影響下におかれ、教育は「階級差のない平等」に重点が置かれました。階級、性別に関係

なく教育が受けられる建前にはなりましたが、実際には長年に及ぶ中国（儒教）の影響、100年のフランス植民地時代、南北に分かれての20年間のベトナム戦争が続き、教育が世界の流れにうまく機能しませんでした。そして市場経済の導入を打ったドイモイ（刷新）政策がスタートした1986年に、ベトナム政府はようやく「教育こそ国の最重要課題」と位置づけ、校舎の建築や教師の待遇などの改善に力を入れ始めました。

ドイモイから現在までの約30年間、ベトナムは教育分野で一定の成果をあげ、現在の非識字率は9.7%まで下がりました。しかし、市場経済の導入で貧富の格差が広がり、それが教育にも影響を与えました。特に農村部は貧しく、そこに暮す子ども達は読み書きが十分できないまま中学を中退するケースが見られます。ベトナムの法律では、小中学校の授業料を払う必要はないとしていますが、実際には（先生の給料が低いこともあります）、先生が生徒から何かにつけて料金を徴収し、それが貧しい家庭にとって負担になっています。

教育の不平等と中学の中退はベトナムの安定と未来だけではなく、ベトナムと経済的に関係のある国々にとっても不安の影を残しています。ベトナムの人口の60%は30歳未満です。安い労働力ゆえ海外からの投資が増え、日系企業はその筆頭です。ベトナムに住む日本人の数も増加しています。戦争の過去があるにもかかわらず、ベトナムは日本にとって親密な国なのです。ベトナムは日本からの支援を大歓迎していますし、それが日本とベトナムの関係をより緊密にするでしょう。特に教育支援は、将来、ベトナムと日本の両国がその恩恵を受けるのではないかでしょうか。

## ミャンマーの教育の歴史

### ● イギリスの植民地からの独立、しかし軍事政権の成立で画一的な教育

ミャンマー事務局長 ニーニー

ミャンマーでは遠い昔から教育を尊重してきました。血縁を中心とする自給自足社会が長く続いた時代、村ではお寺（僧院）が教育や文化の中心で、子どもたちは3年間、仏典などを通じて読み書きを習いました。アナウヤッタ朝が成立した1050年にパガン王朝が成立し、男尊女卑的な教育が始まりました。その結果、男性の識字率が女性のそれよりも高くなりました。タウンジー王朝が成立した1540年頃になると、天文学、医学、兵術、ものづくりなどの学科が発達しました。1759年に成立したコンバウン王朝の頃には、識字率はかなり高かったようです。庶民の生活に関連する学問も発達し、それが生活の質を向上させました。こうした伝統が続き、僧院での教育は21世紀の今でも、通常の教育制度と平行して存続しています。

### ● 植民地時代の教育

1721年、ポルトガルはミャンマーに最初のローマ・カトリック教会を建て、以後1864年までに204を數えました。この間、ローマ・カトリック教会が教育を推し進めました。ミャンマーは1824、1852、1885年の3度にわたるイギリスとの戦争で敗北を喫し、一部がイギリスの植民地になりました。その領地でイギリス政府は現代風の教育を導入しましたが、設立した公立学校は3つだけでした。

そして1885年にミャンマー全土がイギリスの植民地になると、イギリスはミャンマーに教育局を設けました。イギリス本国の教育省の一部局である教育局ではなく、ミャンマーに教育省をつくって教育大臣が登場するのは1921年です。この年、ミャンマーでムアン・ジーがミャンマー人として初の教育大臣になりました。その後、第2次世界大戦中に日本軍による占領がありましたが、その間、教育上の目覚しい変化はありませんでした。

※1989年までの名称はビルマでしたが、この記事ではミャンマーで統一しました。

## ●独立後の教育

ミャンマーは1948年に独立しました。しかし、1962年に軍がクーデターを起こし、ミャンマー独自の社会主義路線を進み始めました。教育の内容も中央政府からの指示で決定されるようになり、すべての私立学校も国有化されました。1988年の民主化運動を機に政府の教育政策が変更されて学区制が導入され、学校の管理運営は各学区に任せられました。さらに2001年には「学ぶ=新しい知識の獲得」をスローガンに2030年までの6次にわたる五ヵ年計画を策定することにしました。同時に、中学校の中退率が高かったため、2001年度以来、中学就学率と卒業率を上げる施策が採られています。

教育の現状ですが、議会の設置を謳った2008年の憲法で、ミャンマー政府は小学校の教育費（授業料）を削減し、家庭の負担を軽減する方針を明らかにしました。しかし、物価の上昇がすさまじく、教育費を捻出できない家庭も少なくありません。加えて、農村部では雨の降りすぎで農産物が育たないこともあります。生活が苦しい農家の子どもは学校を辞めてしまいます。農村部でも都市部でも日本からの教育支援を必要としている人々は大勢います。



ミャンマーの中学校

### 新役員等名簿のご案内

公益財団法人民際センターの理事、評議員に変更がありましたので、変更後の役員等名簿をご案内します。

（平成26年10月1日現在）

#### ＜変更内容＞

就任：衛藤真規氏が評議員就任

変更：大島仁志氏が評議員を辞任し理事に就任

辞任：高柳弘氏が理事を辞任

（50音順、敬称略）

	氏 名	備 考
代表理事	秋尾 晃正	理事長
理 事	阿刀田 高	作家・前社団法人日本ペンクラブ会長
	浦上 節子	公益財団法人浦上食品・食文化振興財団理事長
	大島 仁志	キリンビール株式会社元常務執行役員 キリンホールディングス株式会社元常勤監査役
	小島 明	日本経済新聞元専務取締役・論説主幹 政策研究大学院大学客員教授
	平野健一郎	東京大学・早稲田大学名誉教授
監 事	野呂 昌彦	元財団法人国際文化交流推進協会専務理事
評 議 員	衛藤 真規	サイタコーディネーション代表
	小笠原耕司	弁護士・小笠原六川国際総合法律事務所代表
	加藤 隆久	建築家・加藤隆久都市建築事務所代表取締役 明星大学理工学部教授
	後藤 満	株式会社食生活代表取締役
	行方 一正	株式会社エイチ・アイ・エス取締役相談役
	山下 利治	情報印刷株式会社代表取締役社長



## インタビュー タイ政府の教育政策について

元教育省事務次官

パノム・ポンパイブール氏（現EDFタイ理事）に聞きました。

経済的に貧しい地域の教育の質を上げることが  
タイ全体の教育の質をあげることになる

—— タイの中等教育の政策についてタイ政府はどのような方針の下に教育を進めていますか？

**パノム** 教育全体のレベルアップを図ってきたのはもちろんですが、特に義務教育の普及に特別の努力を重ねてきました。義務教育普及の過程で大きな障害は、経済的に貧しい家庭の子どもたちが基礎教育を受けることができないという不平等が存在していることです。

現在、例えば、世界の学生たちが競う数学オリンピックなどのコンテストでタイの学生が優秀な成績を収めるようになって、タイの学生の優秀さが証明されています。私としては大変に誇らしいのですが、それでも世界の教育水準で比較すると、タイの教育レベルはまだまだ上位とは言えません。これは義務教育がそれなりに普及し、また一部の学生が国際コンクールに勝てるほど優秀でも、貧しい子どもたちが受けている教育も含めて国民全体の教育の質が、私が思っているほど高くないからかもしれません。

私としては、一部の教育の質をアップするだけではなく、貧しい子どもたちが受ける教育の質をも同時にレベルアップすることが重要だと思います。富裕層の子どもたちが通う学校の教育はレベルの高い内容ですが、中流以下の子ども達はそうではありません。タイの人口の80%を占めるといわれる農村部の教育インフラの質はまだまだ十分ではありません。

—— 中学校の教育の質を高める上でもっとも大切なのは何でしょうか？

**パノム**大切なのは国のリーダーのビジョンではないでしょうか。教育の内容の充実を国の発展に結びつけるビジョン。ラーマ王5世のとき、政府が義務教育をスタートさせました。タイ政府は国を発展させるために近隣諸国に先駆けていち早く義務教育を小学校から中学校まで延長させました。世界の情勢から判断して、当時のリーダーが小学校の教育だけでは十分ではないと考えたからです。

—— 日本人は長い期間にわたってダルニー奨学金を通じてタイの子ども達の教育支援をしてきました。今後、日本人支援者に期待することは何ですか。

**パノム**私は支援をしていただいている日本人の支援者の方に心から感謝の言葉を述べたいと思います。

ダルニー奨学金は1対1、つまり子ども1人の支援ですが、それが子どもたちに教育の機会を提供するとともにタイ事務局にとっても、別のプロジェクトをスタートさせる意欲ときっかけを与えてくれます。そして、それが大きなスケールでタイの子ども達の教育環境の改善につながっています。

さて、日本の支援者の皆さんに対する私の期待ですが、先ず支援を継続していただいて、経済的に貧しい子どもに希望を与え続けてほしいと思います。次に教育の質を改善する方法についても支

援や協力がほしいですね。例えば、退職した日本人の先生がタイに来て学校で子ども達に日本語を教えたり、技能を持った人が職業訓練をしたりする。逆にタイ人が日本に行ってタイ語を教えたり、何らかの技術を教えたりする。こうした交流を行うことで、タイの先生は学校での授業の仕方を学ぶことができます。もちろん、お互いの文化や習慣等についてももっとよく知ることができます。今以上に仲の良い国になるでしょう。

—— 日本の事務局（民際センター）は数千の中高校を対象としたインターネット姉妹校事業を検討中です。学校同士がインターネットで通じて1対1の姉妹校になり、まずお互いを理解しようという事業ですが、最終的な参加校は大規模な数を見込んでいます。

**パノム** この事業を実施するに当たり、インターネットで日タイの生徒が交流するだけではなく、もっと様々な面で交流を実施する必要がありますね。例えば、インターネットによる先生の交流、また、どちらの国に訪ねて行ってface to faceで実際に交流すること。インターネットは単に交流のスタートに過ぎないのではないかと思います。それから発展する様々な交流を通じて、この事業はより大きい成果を生むのではないでしょうか。好きになった人とお付き合いを始めて、お互いをより深く知るようになって、さらに愛が深まるのと同じです。ただ、注意を要する点もあります。それぞれの国の考え方、感じ方、マナーが違いますから、最初からきちんとルールを作つて進めるべきではないでしょう。緩やかなガイドラインをつくってお互いを知って、徐々に関係を深めていくことが大事です。

## ラオス少数民族教師養成事業

### 勉強中の奨学生を紹介します！

ニス君（22歳）の村は電気も来ていない、タオイ族の小さい村です。ニス君の家に行くためには教師養成短大があるサワンナケート県中心地からトラックで8時間、その後は道路がないため、歩いて7時間かかります。ニス君の両親は二人とも学校へ通ったことがなく、特に木材伐採の仕事をしていたお父さんは倒れてきた木に押しつぶされて死亡し、以来、家計はより苦しくなりました。ニス君は家畜の世話を担っていたため、11歳まで小学校に行くことができませんでした。どうしても学校に行きたかったニス君はお母さんにお願いして小学校に入学、当時は教師2名がすべての学年を指導していた劣悪な環境でしたが、ニス君は頑張って勉強し、無料で勉強できるサワンナケート県の少数民族中高一貫校にはいることができました。民際センターの奨学金で教師養成短大に入学できたニス君は、卒業したら出身の村の学校にもどって教えたいたいと言います。



※少数民族教師養成事業へのお問合せや申し込みはinfo@minsa.orgまたは03-6457-5782

（担当：志賀だうる）にご連絡ください。

# 二人のタイ

タイ事務局（EDF タイ）に二人の元奨学生から連絡がありました。



大学の卒業式。お母さんと。

## ①元奨学生ラッタナ・ノーノイ

### 両親が出稼ぎに行っている間、姉と二人で生活

私の両親の家は農家です。しかし、所有する田んぼがなかったので、他人の土地を借りて田植えをしていました。そのため、収穫した米の半分は地代として土地所有者に提供せざるを得ませんでした。生産したのは米だけだったので、農繁期が終わると、両親はサトウキビ畑に出稼ぎに行きました。その間3～4ヶ月、私と姉は二人だけで暮さなければなりませんでした。出稼ぎが終わると、両親は現金をもって家に帰ってきましたが、そのお金は4人家族にとっては十分ではありませんでした。そのため、姉は小学校を終えると働き始めました。2000年に私が小学校を卒業するときも家族の経済状況は同じでしたから、もし奨学金をもらっていたら、私も中学校に行っ

ていなかっただろう。当時、私は読み書きが一通りできれば十分だと思っていたましたが、両親は教育が私の将来を広げてくれるはずだと考え、中学校への就学を勧めました。こうして中学に進みました。ダルニー奨学金をもらうことで、親にあまり負担をかけずに済みました。

2003年に中学校を卒業すると、私の同級生の多くは工場などで働き始めました。幸い、私は政府から教育ローンを得、高校に進むことができ、さらにウボンラーチャターニー大学を受験して合格。私の村ではじめての大学生だったので、両親は私のことをとても誇りに思ったようです。大学では授業の合間に大学構内でバイトをしました。夏休みの間もあまり実家に帰らずに、学費を貯めるために働きました。

大学では環境衛生学を専攻しました。卒業後、薬剤師の免許を持つサラユットと結婚してドラッグストアを経営しました。加えて、生活を良くするために財産や株の投資をしています。現在の私の仕事は大学で勉強したことと直接の関係はありませんが、それでもお店に薬などを買いに来るお客様に生活の衛生状態を良好に保つ大切さを伝えています。

繰り返しになりますが、もし私が奨学金をもらっていたら、今の私はないでしょう。

奨学金とそれを提供してくれた日本の支援者の方には心から感謝しています。また、このように記事を書く機会をえていただき嬉しいです。支援者の方がいつまでも健康でありますように。



経営するドラッグストア内で。右は夫

## 2015年チャリティカレンダー販売開始

商品を購入するだけで奨学金の寄付が可能です

～ご家族・ご友人・お得意先へのプレゼントにもどうぞ～

# 元奨学生の消息

二人が奨学金をもらって中学校を卒業した後の進路と現在の生活を紹介します。

## ②元奨学生ニコーン・スワルック

### 大学卒業で最初の夢は実現。次の夢は日本で働くこと

小さい頃、私はローイエット県の農村部に暮らす貧しい農家の子どもでした。小さな田んぼを所有していて、両親は必死に米を作っていましたが、家族4人が食べていくほど十分には収穫できず、母は農閑期にお弁当をつくりて学校で売っていました。私は可能な限り朝早く起きてお弁当作りを手伝い、それから学校に行きました。昼食時も母を手伝い、学校が終わると、街角で焼き鳥などを売っていました。稼いだお金は、兄と私の教育費にも使われました。

夜、学校の宿題や復習などをしました。朝早くから夕方まで母を手伝うので、夜はくたくたになるのですが、宿題と復習は欠かしませんでした。「勉強は貧困から抜け出る道」と両親は私たちに繰り返し諭したからです。ですから、奨学金をもらえると知って本当にうれしかったです。奨学金は家族の負担を軽減しましたが、それだけではなく、貧困の中で生活する私たちに手を差し伸べてくれる人がどこかにいると思うだけで心が躍りだすようでした。

一番嬉しかったことは、奨学金を提供してくれた日本人の方がわざわざ私に会いに来てくれたことです。そして高校も奨学金を提供すると約束してくれました。こんな田舎の貧しい少年に奨学金を・・・私は心から感動しました。そして、私は彼に約束しました。「一生懸命勉強して大学まで行き、家族を幸せにする仕事に就きます」と。そして約束は実現しました。私はラージャパット大学に入り、化粧科学を専攻しました。卒業後、ウドンターニー県にあるクリニックでメディカル・ビューティ・コンサルタントとして働き始めました。

次の目標は、自分を磨くために外国で働くこと。特に日本で働くこと。そして、私を支援してくれた方にもう一度会うこと。以前に訪ねて来てくれたことに対するお返しです。努力と忍耐が夢や希望を実現させる——私は子ども時代からそのように信じてきました。だから次の目標に向かってもそうするつもりです。

私は支援をしてくれた日本人を心の中で「私のお父さん」と思ってきました。奨学金に心から感謝しています。お父さんとの約束を実現しようと思って大学卒業までガンバッてきました。一生懸命勉強して仕事を得ることが貧困から抜け出す道です。特に私のように貧しい家庭で生まれ育った子にとっては。心から支援者の方にお礼を言いたいと思います。

それにしても、支援者の方は日本でお元気に暮しているのでしょうか？



#### ■ 価格：1,000円／部 ■

民際センターのオリジナルカレンダーです。

奨学金の締切、支援国の祝祭日が記載されています。

※左に掲載した表紙はイメージです。

ご購入は、WEB、もしくは郵便振替で。

口座番号：00160-7-664928

加入者名：公益財団法人 民際センター

※窓口からのお振込の場合のみ、振込手数料が免除されます。

（お振込される際は、振込手数料免除口座である旨を）  
（必ず郵便局員にお伝えください。）



# 〔ドロップアウトしたカンボジア奨学生と労働事情〕

コンポンチュナン県の中学校に通っていた中1の奨学生スレイリープは今年、中2に進級せずに学校をやめました。5人きょうだいの末っ子でお兄さん・お姉さんたちは結婚したり、働いたりして家を出、今はお母さんと二人で暮らしていますが、お母さんが病気を患ってしまい、スレイリー



## カンボジアの労働事情

カンボジアでは現在、縫製品や靴の輸出が好調で、プノンペン周辺にはたくさんの工場があります（労働者のほとんどは女性）。工場の月給は5～6年前は50ドルでしたが、好調な経済発展に従って給料も上がっています。しかし、電気代や土地代など物価も上昇しています。加えて、政府による土地の強制収用で土地を失う農民も少なくありません。工場では、つい最近まで「月給を160ドルにあげろ」と賃上げ争議が頻発していましたが、争議は抑えられてしまいました。借金をかかえて生活が苦しい農民はタイに出稼ぎに行っていましたが、最近は韓国や日本にも行くようになりました。「韓国に行けば月700～1500ドル稼げる」などと言われているからです。

が働かざるを得なかったからです。お兄さん・お姉さんも仕送りしてくれますが、合計で月10～20ドル程度です（彼らの生活も苦しいのです）。

スレイリープは最初、年齢を偽って同県内の工場で働くと思っていました。工場の月給は100ドルと聞いたからです（ちなみに、大卒の小学校の先生で125ドル、中学校の先生で125～175ドル）。しかし、健康状態が思わしくないため、採用されませんでした。それで、ちょうど今（9月現在）農繁期なので、近くの農場で田植えの手伝いをしています。とはいえ、仕事は週2～3回で日給は2.5ドル。これではお母さんが月2回病院で診療を受ける治療代25～30ドルを払えません。さらに農繁期が終われば仕事はありません。この農繁期が終わったらどうしよう…。スレイリープは自分とお母さんの将来を思うと不安で胸がいっぱいになります。



## 寄付金控除受けられるようになりました！

民際センターが税額控除対象法人となり、寄付金控除が受けられるようになりました。個人の皆様の寄付金控除は、「所得控除」または「税額控除」がありますが、一般的には「税額控除」を選択すると有利になります。

### ◆税額控除の計算例

奨学金1口の場合  $(14,400\text{円} - 2,000\text{円}) \times 40\% = 4,960\text{円}$

### ◆控除を受けられる対象は？ 2,000円以上の寄付

2014年分は2014年5月7日～12月31日に民際センターで入金確認されたものとなります。

### ◆どうすればいいの？ 確定申告が必要です

2015年1月下旬に民際センターから「領収書」と「税額控除に係る証明書」の写しを一括送付しますので、忘れずに申告してくださいね！

# もうひとつのAXCR（アジア・クロスカントリー・ラリー）

3年目のAXCRへの挑戦、ダルニー奨学金への支援も3年目

ガレージモンチ 竹野悟史

ダルニー奨学金を知ったのは6～7年前、国内のオフロードレース「トライアングル」でした。トライアングルは、1年間、日本国内で競い合い、勝ち抜いたチームが全国大会に進み、そこで1位のチームがタイで行われるAXCRへの切符を獲得するオフロードの自動車レース。その大会本部前に「ダルニー奨学金」と書いた看板と子どもたちの写真が置いてありました。主催者にダルニー奨学金を始めたきっかけや支援の現状について聞き、僕たちのチーム「ガレージモンチ」も賛同しました。

2010年にチームのひと組がトライアングル・ジャパン・ファイナルで優勝し、AXCR観戦ツアーの切符を手にし、翌2011年にタイとカンボジアに行き、自分の目でタイの農村部の光景を見ました。赤ちゃんを抱っこしている小さい子や畠で仕事をしている子。カンボジアでは、牛を何十頭も引き連れている子どもたちを見ました。彼らに聞くと、お金がなく、自分が学校に行かず家族のために働いていること。しかし、働いている子どもたちは明るくいい子達でした。

AXCR観戦の翌2012年、ジムニーでの挑戦を決めました。4人の子どもがいる僕には、タイやカンボジアの子どもたちの状況は他人事ではありませんでした。日本に帰って家族や仲間に伝え、何か自分たちでも支援ができたらと思い、2012年から「ガレージモンチ・ダルニー奨学金を支援する会」を作り、みんなで一人でも多くの支援をできるように募金を始めました。

最初の年（2012年）は、タイの子を2人、2013年はラオスの子を3人、2014年は、カンボジアの子を2人、各3年間の支援ができました。同時に新聞やラジオ、ホームページなどで絵本や文具の寄付を呼びかけ、ラリーの時に持つて行きました。本当にすごい数の人が手を差し伸べてくれました。



手前がカンボジアの  
奨学生。奥が竹野さん

2012年はタイで支援している子ども達に会えて、自分たちがしている事を実感し、僕たちにとってもいい勉強になりました。そして今年はカンボジアの子を首都のプノンペンに招待し、ラリーの表彰パーティーに出席してもらい、先生ともどもホテルにも一泊してもらいました。はじめて会った時はかなり緊張していて、笑顔を見せてくれませんでしたが、徐々に慣れて一緒に民族踊りを見に行ったり食事をしたりしました。一つ気になったのは、天井をよく見ていました。理由を聞いてみると、電気のない村で生活をしているから（照明が珍しいと）と聞きました。日本では考えられないことです。

レースは遊びです。遊びで始めた支援ですが、ダルニー奨学金を3年間支援して、実際に現地で子ども達とふれあって感じたことは、現地の子どもたちはすごく喜んでくれている、そして僕たちにとっても良い経験・勉強になっている。温かい気持ちになれる。そして、実際に自分の目で見て、自分の手で触って感じたことは本物だということ。これからももっとたくさんの人に出会い、伝え、もっともっと子どもたちの笑顔を見ることができるように、楽しみながら仲間と一緒に支援を続けようと思います。

## 民際センター エッセイコンテスト

## 阿刀田高賞作品

昨年から今年にかけて募集した「民際センター・エッセイコンテスト」に 182 通の応募があり、審査の結果、「阿刀田高賞」1 点、「神山典士賞」1 点、「資生堂賞」1 点、「ハウス食品賞」3 点、民際センター賞 10 点が決まりました。本号では「阿刀田高賞」の作品を掲載します。

## 一通の手紙

N・N(兵庫県神戸市)

トウクトウクで走る街の中心部は、舗装のいきとどいていないがたがた道のせいで、体に衝撃が走る。周囲は、土にしみた雨の匂いで充満している。生暖かい風を頬に受け、隣をすれすれに通りすぎていくバイクタクシーから身をかわす。

「スリーダラー。」

どう考えても、この近距離では 1 ドル以下が相場だろうという距離に、交渉どおり 3 ドルを支払い、トウクトウクをおりた。空を仰ぐと、どんよりした雲の向こうに強い太陽の光が隠れている。足元には雨季の雨があふれていたけれど、昨日は埃っぽかった街全体の空気が雨で掃除されているようだった。

屋台でヤキソバを焼いている笑顔のおばさんから、袋に入ったスープとヤキソバを受け取り、二〇〇〇リエル支払うと、ぶらぶらと街を歩いた。

私という存在を消し去ってしまった認知症の祖母を見舞った帰り、たまたま目にしたタプロームの遺跡のパンフレットを見て衝撃を受けた私は、その足で旅行会社に行き、航空券とホテルを手配した。そのため、カンボジアという国について、まったくといっていいほど前知識がなかった。だから、こうしてシェムリアップの街に昨日到着してから、どうしてよいかわからずさまよっていた。雨水のあふれた道、バイクやトウクトウクの行き交う喧騒たる街、木やトタンを組み合わせてつくった建物、目の前にあるのはお世辞にもきれいとは言えない街だ。しかし、人々の目は輝き、街全体から力強さが伝わってくる。

「アーユージャパニーズ？ トウクトウク、ファイブダラー。」

「ニホンノトモダチ、フォーダラー。」

歩いていると、トウクトウクの運転手がさかんに声をかけてくる。日本のようにメータータクシーがないため、

乗る前に料金の交渉が必要だ。ホテルまでトウクトウクで戻る必要があるが、日本人だとわかるととても高い値段を設定する。それらのトウクトウクの一団をノーサンキューと言ってやりすごし、あらたなトウクトウクを探す。周囲を見回すと、一台のトウクトウクが道の端に遠慮深そうに止まっていた。運転手の「彼」の視線は、雨上りのさわやかな空に向いていて、大きく深呼吸をしている。

「〇〇ホテルまでお願いしたいのですが。」

突然私に声をかけられてびっくりした様子だったけれど、すぐにこくりとうなずいた。

「一ドルで行ってもらえますか？」

彼は、だまってうなずいた。

これが「彼」との出会いだった。

次の日、たずねておいた携帯に電話すると、彼はすぐにやってきた。そして、ホテルの敷地の、一番目立たない場所でひっそりと待っていた。薄緑のシャツと青いズボンは着古しているけれど、きちんと洗濯されている感じがした。

「今日は、タプロームの遺跡に行きたいのだけど、一ドルでいいかしら。」

「オーケー。」

相場よりもかなり安い値段を口にして、あっさりオーケーという言葉がかえってきたことに、私はあわててしまった。そんな私の様子をものともせず、彼は黙々とトウクトウクを走らせた。途中、何度も彼に話しかけてみたが、街の喧騒のせいで、私の言葉は彼に届かなかった。あるいは、彼は簡単な英語しか理解できないのかも知れなかった。でも、彼はいつも穏やかな顔をしていた。

ガジュマルに覆われたタプロームの遺跡。修復せずに放置された巨大な石の数々。苔むしたデバター。認知症の祖母の頭から、私の存在を消し去ってしまった時間の

流れを止めてしまいたいと常々思っていた。ここでは、おびただしい時間の流れが静寂の中で固まっていた。それは、遺跡にとっては破壊であったが、いまではガジュマルと共に鳴していた。祖母の認知症も、私という存在を解せなくなった祖母も、それがいまの祖母なのだ。タブロームの遺跡を前にして、私は祖母の認知症を受け入れられるような気がした。

次の日も、その次の日も、彼は私の指定した時間にきちんと待っていた。相変わらず言葉少なだったけれど、少しづつ笑顔を広げて待ってくれるようになった。そして、日の最後には、どんなに私が言っても一ドルしか受け取らなかった。

そんな日が続き、ついに明日帰国という日になった。  
「今日は、あなたのおすすめの場所に連れて行ってくれるかしら。」

「オーケー。」

彼は、それだけ言うと、トウクトゥクを走らせた。トウクトゥクは、アンコールワットの付近をすぎて、まだ走り続けていた。どこへ行くのだろう、どこまで行くのだろう。トウクトゥクを走らせる彼のうしろ姿を見ながら、少し不安になってきた。思えば、私は彼のことなんて全く知らないのだ。なんとなく勘で、感じの良さそうな人、と思っているだけだ。やがて、トウクトゥクは止まった。そこには、「The Land Mines Museum 地雷博物館」とあった。

カンボジアには、今なお地雷がたくさん埋められているという。それをあやまって踏んでしまい、命を落とした人、足が不自由になってしまった人たちがたくさんいるという。写真や、日本語による解説もあった。そのリアルさに、思わず目を背けてしまいたくなる場面もたくさんあった。彼は、所在なげにトウクトゥクにもたれかかって私を待っていた。その眼は、潤んでいるように見えた。

「私の身近な人が、地雷を踏んで亡くなったんだ。」  
彼はそれだけ言うと、トウクトゥクを走らせた。身近な人って、誰なんだろう。もし、自分の大切に思っている人が地雷を踏んでしまったことでこの世から消えてしまったら……。そう考えると、彼の心の痛みがじんじん伝わってきて、彼の姿が涙でにじんだ。それと同時に、カンボジアという国の発展を妨げているものの根の深さや闇の部分がひしひしと感じられた。

辺りはすっかり暗くなっていた。カンボジア最後の夜

になって、私ははじめてこの国を知る入口によく立てたのだ。その國の人と知り合ってはじめて、その國の扉を心から開けることができるのだ、としみじみ感じていた。

トウクトゥクはシェムリアップの空港に向かっていた。彼のトウクトゥクに乗るのも、これが最後だ。  
「リエルがたくさん残っているので、お願ひだから使ってください。」

私は、たくさんためたりエルを封筒に入れて、無理矢理彼に渡した。彼はまたあの遠慮深そうな笑顔をみせて、それを受けとった。

「ありがとう。あなたのおかげでカンボジアを好きになれそうだし、いろいろなことをこれから知りたいと思ったわ。」

握手のために手を差し出すと、彼はそれには応じず、そのかわりポケットに手をつっこんだ。

「帰りの飛行機で読んでください。」

ポケットから出したしわだらけの封筒を、照れくさそうに私に渡した。

飛行機が飛び立つと、私はそっと手紙の封を開いた。思いがけないことに、とてもきれいな英語で書かれていた。「この数日間、ありがとう。カンボジアという国があなたの目にどのようにうつっただろうか。この国をなんとかすばらしい国にしたい、その気持ちを胸に、一生懸命勉強して奨学金をもらい、ベトナムの大学を卒業した。そして仕事に就いたのだが、舌の病気になってしまった。そのため、うまく話をすることができなくなり、仕事を失った。だから、あなたともたくさん話ができなくて残念だ。この病気はカンボジアでは治療できないので、トウクトゥクの運転手をしながら、お金をためて治療したいと考えている。」

カンボジアは、あなたの国日本のように発展をしていないし、きれいな国でもない。しかし、私のように、心の底から国をよくしたいと考えている人がたくさんいる。どうか、この旅あなたが感じたカンボジアという国のこと、日本の人々に伝えてほしい。これからも、あなたがすてきな旅を続けられるよう、祈っている。そして、またいつか、カンボジアを訪れてほしい。」

飛行機の外の雲が、涙でかすんだ。帰ったら、まず祖母にカンボジアの旅のことを話そう。彼の手紙を手にしたままずっと、私は時が経つのを忘れていた。

## 鶏肉のハーブ蒸し (ໄກ່ນິ້ງສມຸນໄພຣ)

### 材料

A

鶏のもも肉 1枚  
 レモングラス (根元から半分まで) 2本分  
 にんにく 2片  
 プリッキーヌー (タイの生唐辛子) 1~3本  
 (辛さは好みで！)  
 万能ねぎ 2本  
 ディル(パクチーラオ) 蒸す用 15g位・飾り用 5g位

B

ナムプラー 小さじ1  
 シーウーカオ(なければ薄口しょうゆ) 小さじ1  
 砂糖 小さじ1/4  
 プリックチーファー (なければ赤ピーマン) 少々

### 作り方

- 1 Aの材料のレモングラスは、根元の方から薄い輪切りにする。にんにくは包丁の背で潰す。プリッキーヌーは輪切りにする。
- 2 1をクロック (石うす) またはフードプロセッサーで粗くつぶす。
- 3 鶏肉は、フォークで穴を開けて、味がしみ込みやすいようにする。
- 4 万能ねぎは 1cmに切る ディルは葉をちぎる。
- 5 ボールまたは丼に、鶏肉、2のハーブ、万能ねぎ、ディルとBの調味料を入れて、鶏肉によくもみ込む。
- 6 お湯を沸騰させた蒸し器に5を入れて、強火で30分蒸す。
- 7 熱いうちに食べやすい大きさに切り分け、皿に盛り、飾り用のディルとプリックチーファーをのせる。肉から出たスープがとても美味しい料理なので、深めのお皿にスープも一緒に盛り付けてください。



### Point!

- タイでは地鶏で作る料理です。地鶏で作ると、更に美味しく出来上ります。
- タイ米やもち米はもちろんですが、バケットやバタールなどのフランスパンととても相性が良い料理です。クリスマスや年末年始のおもてなし料理にぴったりです！
- もし、石うすもフードプロセッサーもない時は、Aのレモングラスは薄い輪切りにはしないで、包丁の背で潰してから、ぶつ切りにして蒸してください。盛り付ける時は、レモングラスは取り除いてください。



西大路有紀子

1995 年よりタイ料理を学ぶ。練馬区で料理サークルを主催。2013 年よりチェンマイでベジタリアンタイ料理を学ぶ 1996 年よりダルニー奨学金を支援。

後世、末長く子どもたちを応援できる寄付

## 「私の特別教育基金」～子どもたちの未来のために～募集開始

支援者の皆様に支えられ、民際センターは今年で28年目を迎えることができました。そして今年の4月、一般財団法人から公益法人団体に移行し、念願であった優遇税制措置の対象団体になることができました。これもひとえに、みなさまの温かいご支援の賜物です。改めまして御礼申し上げます。

民際センターは教育支援を通じた貧困の削減と平和構築を団体の理念としています。経済発展著しい東南アジアの国々ですが、勉強したい意欲がありながら、貧困ゆえに基礎教育を終えることができず、その結果、貧困の連鎖から脱出できない子どもたちはまだまだ少なくありません。そうした子どもたちが自分の人生を切り開くべく、そのスタート台に立ってもらう。それには教育の機会を提供することが最良の支援方法だと考え、これまで教育支援を続けてきました。

この度、優遇税制措置の対象団体になったことを契機に「私の特別教育基金」を新しくスタートすることになりました。税金の還付を受けるということは、結果として皆様が納める税金の一部が「子どもたちの教育支援をする」という、ご自分の意思のとおりに使われる効果をもたらすと言えるでしょう。

基金の内容は以下の通りです。末永く安定して子ども達を応援できる「私の特別教育基金」にぜひご賛同いただき、多くの子どもたちの未来に手を差し伸べていただければ幸いです。



### 100年の時を越え、みなさまの想いを伝える社会貢献 「私の特別教育基金」

この基金には、期間により以下の2つのタイプがあります。

- ① 永続型（元本を取り崩さず、その運用益の中から永続的に教育支援事業等に活用）
  - ② 期間限定型（一定期間内に元本と運用益を使い切り）
- ①の永続型基金の場合、ご自身のお名前のついた支援が、ご意向に沿って後世末永く行われます。

教育支援は緊急支援とは違い、すぐに効果が出るとは限りません。現在の奨学生の家族を調べると、年齢の高い両親の中には小学校にすら行ったことがない両親がいます。若い両親でも最終学歴が小学校卒業または中学校中退が珍しくありません。その子どもが奨学金をもらうと、小学校や中学校を卒業します（現在）。さらにその子どもが中学校や高校を卒業し（1世代先）、さらにその子どもが大学を卒業し（2世代先）・・・というように、毎世代ごとに子どもが親の教育歴を追い越していきます。教育支援は社会の発展とともに何世代かにわたってようやく効果が出る息の長い支援だと言えます。仮に1世代で貧困から抜け出せなくとも、何世代かにわたって（そ

の間に社会も発展して）子どもたちを応援することで貧困の連鎖から抜け出すことができるのです。100年の時を超えた、このような長期的な支援に自分の名前を残す（ご本人様が亡くなられた後でも）。これが「私の特別教育基金」の趣旨です。②の期間限定型は、利息を加えながら中期的なスパンで子どもたちを支援します。

**お名前：**「民際太郎 特別教育支基金」のように、基金には支援者のお名前が付きます。

**報告書：**年に1回、報告書をお送りいたします。

**支援内容：**まずは事務局にご相談ください。ご意向に沿った内容を事務局からご提案いたします。

**ご支援額：**100万円から。

子どもたちが将来の幸せを掴む入口の一つである、教育環境の提供を可能にする「私の特別教育基金」についての詳細は、事務局までお問い合わせください。

新潟市

## 「万代アースフェスト 2014」奮戦記

天候に恵まれた5月3・4日の両日、越後の柳都「新潟市」で開催された表記フェストにブース展示で参戦した「新潟ドナー連絡会」は、民際センターの看板パネルのもと集結、2日間に渡る広報に汗を流した。今回はベトナムを中心にメコン



流域の国々の奨学金の支援を呼びかけることとなる。還暦はとっくに過ぎた世話人夫婦とクン・ビア斎藤氏、そして新潟日越友好協会の増井氏（写真左2人目）と趣旨に賛同した市内のベトナム留学生による大掛かりな奨学金広報となった（写真参照）。

芳醇なベトナム・ラオスの淹れたて珈琲の試飲と艶やかなアオザイ姿を武器に道行く市民の足を止め、奨学金広報と彼らが持ち寄った小物販売、コインパネルへとそれとなく導く作戦が功を奏した結果、ベトナム奨学金2口が確保された。増井氏の誘いで新潟市を訪れていたベトナム大使館書記官V. Diep 氏も家族と共にブースを訪れ、留学生たちにエールを送り民際センターの趣旨や活動に感激。在日大使館での何らかの機会に民際センターを招待したいとの嬉しいお誘いも。得られた奨学金は2人分でしたが、思わぬプレゼントでした。

### 振込手数料免除口座開設のごあんない

民際センターは、振込手数料免除口座を開設いたしました。  
全国の郵便局（ゆうちょ銀行）の窓口からお振込いただく場合、振込手数料が免除されます！

※以前にお配りしている払込取扱票は、振込手数料免除口座ではございません。

チラシ、パンフレット等に添付されている払込取扱票をご使用の際は振替口座番号等をご確認ください。

#### ◆振込手数料免除口座◆

振替口座：00160-7-664928

口座名義：公益財団法人 民際センター

- 郵便局に備え付けの払込取扱票に振替口座、口座名義をご記入ください。
- 窓口でお振込する際、振込手数料免除口座である旨を郵便局員にお伝えください。

#### ご注意

窓口からのお振込の場合のみ、振込手数料が免除されます。  
ATMおよび、ゆうちょダイレクト（パソコン、携帯、電話、FAX）からの振込は振込手数料が免除となりません。ご注意ください

## 支援と交流もアナログからデジタルに

タイの中学生を支援している方で、インターネットを日々使用している方、ぜひご協力をお願いします。

公益財団法人 民際センター理事長 秋尾晃正

今年6月のタイでの理事会後、久しぶりにタイ、ラオス、カンボジアの対象地域の学校を訪問しました。校長先生、県教委、郡教委、PTA等の会議後、奨学生の家庭を回りましたが、その一人は粗末な住居に住む女子生徒で、病んだ父親の世話をしていました。父親は出稼ぎで体を壊し、母親は出稼ぎに行ったまま音沙汰がなくなってしまった・・・。先生に聞くと、日本人から奨学金をもらった自負心と支援者から受けた支援のお返しに勉学に励むことを自分に言い聞かせ、クラスの成績はいつも上位であるそうです。その彼女のノートを見せてもらうと、タイ語は判らないけれど、びっしり丁寧にタイ文字が記載されたノートでした。そのとき、持参のスマート・フォンで親子の写真を撮ったのですが、動画でもよかったと後で思いました。一所懸命勉強した成果を日本の支援者に報告できたら、それが彼女のより励みになるでしょう。

その時、もし私が彼女の支援者のメールアドレスを知っていたら、すぐに連絡してSNSでつなぎ、その女子生徒と支援者が対話できる。これは空想ではなく、すでに物理的に可能です。まして、支援者も女子生徒も、一円の費用もかけずに。それができなかったのは、その時、支援者のメールアドレスを持っていなかつたからです。

タイでは、ほぼ全ての学校にコンピューターがあり、インターネットのアクセスが可能になりました。ダルニー奨学金の担当の先生は、タイ事務局のIDを持ち、クラウド上のシステムにアクセスし、奨学生情報やデジカメで撮った写真を送る。タイ事務局はそのクラウド上のシステムから情報を得ます。日本の支援者がメールアドレスを持っていたら、奨学生情報をメールで送付できます。

### ●Emailアドレスがつなぐ支援者と生徒

もう少し時代の先を読んでみましょう。私が最初に支援した元奨学生（タイの第一期生）はすでに38歳になっているはずです。その奨学生が今メールアドレスを持っていたら、ネット上で再会でき対話が可能です。もし今まで支援した全ての奨学生のデータを網羅した私の「マイページ」があれば、支援した奨学生の情報をその場で検索した上、その人たちとネット上で対話ができるかも知れません。第一期生の元奨学生と一緒にになって10年後に、どこかの国の中学生を支援する時代がくるかもしれません。

そこで皆様にお願いがあります。弊団体にメールアドレスを知らせていただけませんか？今は実験の第1段階ですが、知らせていただいた方には、2015年度から通常の証書に加えてメールでも証書を送付いたします。同時に奨学生にはあなたの名前が入った証書のみならず、あなたの写真とあなたが住む都道府県に印をつけた日本地図等をその学校の教師を通して本人に渡したいと思います。まず賛同して下さるかたと一緒にになって「マイページ」作成に試行錯誤しながら進めていきたいと思います。ぜひメールアドレスとデジタル写真（最大1MB程度）にドナー番号を添えて民際センターの mypage@minsai.org に送付ください。

# 学生支援団体 Study for Two 13名がラオスを訪問し、 支援する留学生と交流しました

瞳を輝かせて  
「こんな真っ白いシャツ、  
着たことがない」  
と女の子

広島大学 大城温子

この夏、ダルニー奨学金を通して支援しているラオスの農村の学校に訪問しました。

私たちSTUDY FOR TWOは、大学生から使い終わった教科書を無償で提供していただき、その中古教科書の再販によって得た売り上げを民際センターさんに委託し、ラオスの子どもたちを支援しています。

今回は3つの村を訪問しました。子どもたちはとても素直で、私たちを大歓迎してくれました。私たちが支給したのは鞄や制服のシャツなど、学校に通うために必要な物資でしたが、奨学生はみん

な喜んでくれました。「こんなに真っ白なシャツ着したことない」と瞳を輝かせていた女の子が印象に残りました。私たちの少しずつの協力が、この子たちの笑顔に変わるなら。これからも支援を続けていきたい、続けていくべきだ、と強く思いました。

最後に、民際センターと現地ラオス事務局のスタッフの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



今ある環境の中で、  
良いところに目を向ける  
村人の姿勢に共感

関西大学 小嶋大貴



STUDY FOR TWOは3つの村を訪れ2つの村で寝泊まりしました。自分が予想している以上に食べ物や飲み物に恵まれていない環境でしたが、

人が持つ温かみは日本以上だと感じました。村の人たちは本当に温かく歓迎してくれました。普段、彼らは9~10時に寝るのに、日本人が寝るまでは寝ないといった感じで遅くまで(12時頃になっても)笑顔でいてくれました。日本人、ましてや外国人すら見たことがなかったのに「君たちはもう村の仲間入りだ」と言って快く受け入れてくれたことは一生忘れられない瞬間でした。とはいえ、村の状況はまだまだ整った環境とはいえません。悪い部分に目を向けようとすれば、本当に数多く出てきます。お湯は出ないし、水も自分たちで川に汲みに行かなければなりません。それでも村の人たちは、できるだけ良い所に目を向けています。だからこそ一生懸命生きているし、どんなに辛いことがあっても何とか頑張ろう、楽しもうとします。何とか良い面を探そうとする姿勢は一緒に生活するだけで伝わり、自分もそう考えて頑張ろうと思い、それを人に伝えたいと本気で感じました。

# ラオス小学校支援と交流7日間

## 参加者募集!

出発日:2015年3月8日(日)

訪問地:ラオス

旅行代金:169,000円~174,000円

※大人お一人様代金/2・3名様で1室利用時/燃油サーチャージ含む

※各発着空港施設使用料、旅客保安サービス料、現地出入国税が別途  
必要となります。

支援がなければ小学校を卒業できない子ども達が就学し続けられるように、3名様のご参加で1人の子どもを支援する「奨学生支援プログラム」を組み込んだツアーです。現地では、衛生教育もまだ行き届いていない村の子ども達に「手洗いや歯磨き」を教えたり、現地で日本の料理を1品作って給食として子どもたちに提供したりします。特別な技術が無くても、ツアー参加のアクションが子ども達の未来を創ります。



日付	スケジュール
①	成田・関空発 → 乗継（ホーチミンまたはハノイ）→ ビエンチャン着
②	ビエンチャンからカムアン県へ
③	村の小中学校を訪問し、歓迎式・ランチプロジェクトに参加
④	村の小学校を訪問し、手洗い・歯磨きを教える活動
⑤	奨学生のお宅に訪問・お別れ会、ビエンチャンへ
⑥	自由行動、ビエンチャン（19：35）発 → ハノイ（20：35）着
⑦	ハノイ（00：20）→ 成田・関空（6：40～7：00）着、解散

※弊センター建設の学校を訪問します。問い合わせは、担当田中まで。

### 編集後記

文科省は高校に続いて大学でもスーパーグローバル校を指定して、国際人育成事業に本腰をいれています。高校56校、大学37大学。一方、日本のODAは今年60周年を迎える日本政府は国益重視に重心を移しつつあります。この2つを読み合わせると、国際舞台で日本の国益追求に活躍する人物を養成することが「スーパーグローバル人材」と読めるでしょうか(ちょっとがちすぎ?)。私がパレスチナで暮した十数年前の半年間、欧米NGOのスタッフやパレスチナの人々と話した限りでは、緒方貞子さんが尊敬を集めていました。複雑な国際情勢の中で緊急支援活動を指揮する緒方さんの判断力や自ら危険な地域に赴く果敢な行動力が高く評価されていました。同調圧力が強く、ともすれば内向きに通じる議論ばかりの日本で、様々な価値観が衝突する外国の人々と丁々発止の議論をし、状況によっては彼らを動かす人材をどう育てていくのでしょうか。ある国際会議で議長が「今日の私の仕事はインド人を黙らせることと日本人をしゃべらせることだ」と言ったそうです。近い将来、発展途上国の民衆も含めた世界中の人々から尊敬と信頼を勝ち得る日本人が続々と世界の舞台で活躍するのを見たいものです。(富)



公益財団法人  
**民際センター**

ダルニー通信 第75号 2014年12月1日発行 発行人:秋尾晃正  
公益財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F  
TEL : 03-6457-5782 FAX : 03-6457-5783  
Eメール:info@minsa.org ホームページ:<http://www.minsai.org/>  
振替口座:00160-7-664928  
(この口座は振込手数料免除口座です。必ず郵便窓口にてその旨お伝えください。)

# 自転車プロジェクト

## 第一回授与式が開催されました！

in カンボジア

今年6月から始まった「自転車プロジェクト」の第1回授与式が10月13日～17日にかけて、カンボジアのコンポンチュナン県、カンボット県にて開催されました。



すてきな自転車で  
とっても嬉しいです！



この自転車に乗って  
一生懸命勉強します！

カンボジアでは中学校の数は小学校の約23%しかないため、近くに中学校がない生徒たちは往復2時間を超える距離を徒歩で通学しなければなりません。

今回提供した36台の自転車はそんな遠路を通う生徒たちに勉強を続けるチャンスを与えてくれることでしょう。

中学校の純就学率が35%と大変低いカンボジアでは、毎年多くの子どもたちが勉強を続けることができず、学校をやめています。特に民際センターが支援している農村部での純就学率は都市部に比べ6割弱です。その主な原因是「貧困」や「遠距離通学」だと言われています。



自転車の  
授与式の様子

### 自転車プロジェクト概要

支援国： カンボジア・ラオス

寄付金額： 1口18,000円（150ドル）

（注）円安の影響で価格が変更になっています。

提供時期： ラオス（10月と2月の年2回）

カンボジア（お申込みから3～4か月後）

報告： 写真付ポストカードをお届けします。

寄付方法： 同封の振込用紙か民際HPよりお申し込みください。

\*お問い合わせは担当の窓口まで (info@minsai.org)



ご支援者へは  
写真付のポストカード  
をお届けします。